

両沼地方稲作情報 第2号

令和4年4月8日

発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)

” 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店

(有)山一米穀店、会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区

○ハウス内の温度が30℃以上にならないよう管理を徹底しましょう。

○移植後、置き苗は早期に処分しましょう。

○農薬はラベル等を十分に確認し、適正に使用しましょう。

1 気象について




4月および5月は気温の変動が大きいです。天気予報を確認し、苗が高温や低温に遭遇しないようハウスの温度管理を徹底しましょう(育苗時の温度目安は前号に記載)。

2 育苗時の病害対策

塩水選や、播種前・播種時の殺菌剤による予防が基本対策です。極端な高温・低温や多湿・乾燥(強風)は、苗に病気や生理障害を引き起こします。特に、30℃以上の高温に遭遇すると、苗立枯病やもみ枯細菌病の発生リスクが高まります。高温が予想される日は早朝からハウスを換気してください。(連休期間は特に注意)

(1) 苗立枯病

写真: 図1~3は山梨県病害虫防除所、図4は長野県植物防疫協会須坂研究所より

				
	図1 苗立枯病 (リゾープス属菌)	図2 苗立枯病 (ピシウム属菌)	図3 苗立枯病 (フザリウム属菌)	図4 苗立枯病 (トリコデルマ属菌)
病徴	種籾や根、床土表面に灰白色で綿状のカビが発生。発芽・生育不良を引き起こす。	1~数カ所に坪枯れが発生。苗の腐敗枯死や萎凋枯死症状(ムレ苗)を引き起こす。	苗の基部や種籾の周囲に白や紅色のカビが発生。苗の腐敗枯死を引き起こす。	床土表面や種籾周囲に白いカビが発生し、やがて青緑色になる。種籾・苗の腐敗枯死を引き起こす。
対策例	・ダコニール粉剤の床土混和。 ・播種時にダコニール1000またはダコレート水和剤を灌注。	・タチガレン粉剤またはタチガレースM粉剤の床土混和。 ・播種時または発芽後にタチガレン液剤またはタチガレースM液剤を灌注。		・播種時にダコレート水和剤を灌注。
	・ナエファイン粉剤の床土混和。または播種時にナエファインフロアブルを灌注。			

○農薬の記載は一例です。選択にあたっては各JA 営農経済センターや各販売店の情報も参考にしてください。

(2) もみ枯細菌病および苗立枯細菌病

- ・発病した育苗箱では、すり鉢状の坪枯れ症状がよく見られます。
- ・葉齢が進んだ罹病苗は、新葉が腐敗して抜けやすくなります。
- ・育苗中はハウス内温度が30℃を超えないよう温度管理を徹底します。
- ・発病した場合、育苗箱ごと処分してください。



図5 もみ枯細菌病の罹病苗
新葉が腐敗・枯死している。



図6 もみ枯細菌病により腐敗した新葉
葉鞘基部が褐変し、引っ張ると簡単に抜ける。

3 移植～初期本田管理のポイント

(1) 移植

- ・本田移植は、風が弱く温暖な日にします。
- ・田植えが遅れ、老化苗になりそうな時は、窒素の追肥（液肥）を行います。

○置き苗処分のお願い

本田の置き苗を放置すると、いもち病等の感染源になります。不要な置き苗は処分（ひっくり返す・埋却する等）してください。

(2) 初期除草

- ・除草剤を使用するにあたっては、農薬ラベル等で使用時期、使用方法、適用雑草をよく確認し、適切に使用してください。
- ・散布前にしっかりと湛水し、水口・水尻をしっかりと止めて、漏水がないことを確認してから散布してください。

(3) 水管理

- ・移植直後は苗の萎凋防止のため、苗が水没しない範囲で深水とします。
- ・活着後は浅水（水深3cm程度）で管理します。
- ・日中と夜間の水温較差を大きくし、分けつの発生を促します。
- ・ただし、低温や強風が懸念される時は深水で保温します。

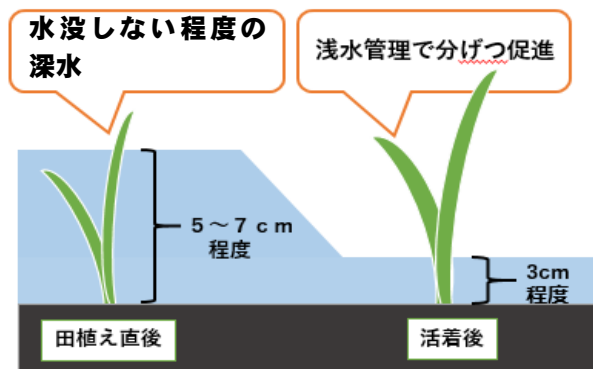


図7 移植後の水管理

○昨年は還元障害(ガス湧きによる根傷み)が多くのほ場で見られました。

【対策の一例】

- ・土壌分析結果に応じ、遊離酸化鉄が低い場合は含鉄資材を施用します(有害ガスの影響を緩和)。
- ・生育に影響がある場合、一時的に落水しガスを抜きます。
- ・還元障害により生育が停滞している時は、葉色が薄くても窒素は追肥しない。

○今年も高温が予想されます。農作業中の熱中症にご注意ください。

○次号は5月上旬発行予定です。

農作業安全運動実施中！

4/1～5/31
安全な農作業を
心掛けよう！

